

# 地理歴史(地理総合)

履修単位	2単位	学 年	2年
学科コース	商業科	区 分	必修・選択
使用教科書	高校生の地理総合(帝国書院)		
副教材等	『高校生の地理総合ノート』(帝国書院)		

## 1. 科目を通じた学習内容と学習目標

この科目では、社会(人間の生活)に関わる物事について地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする学習活動を行います。

この科目の目標は、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することです。

## 2. 授業を受けるにあたってのアドバイス

“地理総合”では、中学校の“地理”を復習・継続しつつ、発展(広げる)・深化(掘り下げる)させていきます。そのための3つのアドバイスを送ります。

【①“地図や語句の暗記”から“地域や概念の理解”へ】

…地図上の位置や意味のわからない語句を「ただ覚えること」が苦痛なら、由来を調べたり、複数の物事と関連付けたりして「何となく理解」しましょう。タブレット等の便利な道具は家庭学習等で効果的に活用してください。調べた事柄を自分なりにノートやレポートにまとめる力も養いましょう。

【② ①で身につけた知識を“活用”する。】

…せっかく理解した知識です。正しい知識に基づいた“考察や判断”で自らの“意見”へと発展させ、レポートや話し合いで“表現”しましょう。その際、他の“意見”も参考にすることで、多面的で多角的に考える力が育っていきます。

【③ タブレットや地理情報システム(GIS)を積極的に活用する。】

…ネット環境下にあるタブレットであれば国土地理院発行の「GIS」が使えます。何はともあれ、まずは検索して色々使ってみましょう。

【☆スポーツを例にすれば、①は基礎練習で②は実戦練習。②のチャレンジで成功と失敗を体験することで、①へのモチベーションも上がります。テストは練習試合。公式戦は今と未来の日常生活です。ちなみに③は①と②を繋ぎ、日常生活に活かすための便利な道具です!】

## 3. 科目を通じた評価の観点と評価方法

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめている。	地理的な物事の <b>意味(意義)</b> 、 <b>特色や関連</b> を、 <b>①位置や分布</b> 、 <b>②場所</b> 、 <b>③人間と自然環境との相互依存関係</b> 、 <b>④空間的相互依存作用</b> 、 <b>⑤地域</b> などに着目し、地理的概念を活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想している。また考察や構想を基に説明や議論ができています。	よりよい社会の実現を視野に、地理的な物事に見られる諸課題を主体的に(自分事として、粘り強く、かつ柔軟に)追究、解決しようとしている。
評 価 方 法	定期考査 単元テスト 小テスト レポート 等	定期考査・単元テスト・小テスト グループ活動 レポート 発表(プレゼンテーション) 等	振り返りシート 授業への取り組み 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまり(単元)ごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じた、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

#### 4. 年間を通した学習計画

(より詳細な「学習内容・ねらい」・「評価の観点・評価方法」等については、各単元の最初の授業等で説明します。)

知識・技能=【**知技**】 思考・判断・表現=【**思判表**】 主体的に学習に取り組む態度=【**態度**】

月	単元の学習内容 ※部…大単元 章…中単元 ※節…小単元 (節より細かい単元 についてはその節に入る際 に詳細を示す)	単元の学習目標 ※記載は中単元(章)の学習目標 ※小単元の学習目標については 各単元の最初で示す	単元の評価規準 ※記載は中単元(章)の評価規準 ※小単元の評価規準について は各単元の最初で示す	主な評価の観点			備考
				知技	思判表	態度	
4月 6月初旬	<b>1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界</b>  <b>1章 地図や地理情報システムと現代世界</b> 1節 地球儀と地図 2節 地図と地理情報システム  <b>2章 結びつきを深める現代世界</b> 1節 現代世界と国家の領域 2節 地図から見る国内や国家間の結びつき	◇地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。 ◇地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につける。 ◇各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ◇目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだす。	①地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。 ②地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。  ③各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。  ④目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	○			
				○			○
6月中旬 9月	<b>2部 国際理解と国際協力</b>  <b>1章 生活文化の多様性と国際理解</b> 1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の産業と人々の生活 4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 5節 多様な生活文化と地理的環境	◇世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解する。 ◇世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。 ◇地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ◇世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだす。	①世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。 ②世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につける。  ③地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。  ④世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	○			
				○			○

月	単元の学習内容 ※部…大単元 章…中単元 ※節…小単元 (節より細かい単元 についてはその節に入る際 に詳細を示す)	単元の学習目標 ※記載は中単元(章)の学習目標 ※小単元の学習目標については 各単元の最初で示す	単元の評価規準 ※記載は中単元(章)の評価規準 ※小単元の評価規準について は各単元の最初で示す	主な評価の観点			備考
				知 技	思 判 表	態 度	
1 0 月 ～ 1 1 月 前 半	<b>2部 国際理解と国際協力</b>  <b>2章 地球的課題と国際協力</b> 序節 複雑に絡み合う地球的 課題 1節 人口問題 2節 食糧問題 3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題 6節 地球環境問題	◇地球的課題が生じている場所や 要因,課題どうしが相互に関係し 合っていることを理解する。 ◇地球的課題が生じている場所や 要因,課題どうしが相互に関係し 合っていることを見いだすための, 地理的見方・考え方を身につけ る。 ◇地球的課題がどこで,どのように 生じているのかや,解決のために どのような取り組みがなされてい るのかについて,多面的・多角的 に考察し,表現する。 ◇持続可能な開発を実現するた めに必要な取り組みや国際協力 のあり方について,主体的に追究し, 課題を見いだす。	①地球的課題が生じている場所や 要因,課題どうしが相互に関係し 合っていることを理解している。 ②地球的課題が生じている場所や 要因,課題どうしが相互に関係し 合っていることを見いだすための, 地理的見方・考え方を身につけ ている。  ③地球的課題がどこで,どのように 生じているのかや,解決のために どのような取り組みがなされてい るのかについて,多面的・多角的 に考察し,表現している。  ④持続可能な開発を実現するた めに必要な取り組みや国際協力 のあり方について,主体的に追究し, 課題を見いだしている。	○			
1 1 月 後 半 ～ 1 月	<b>3部 持続可能な地域づくりと 私たち</b>  <b>1章 自然環境と防災</b> 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波や火山活動 による災害と防災 3節 気象災害と防災 4節 自然災害への備え	◇自然災害が生じる場所と要因, 日本の自然災害の特徴,生活の なかにみられる防災・減災への 取り組みを理解する。 ◇自然災害が生じる場所や要因, 日本の自然災害の特徴,生活の なかにみられる防災・減災への 取り組みを見いだすための,地理 的見方・考え方を身につける。 ◇どのような自然災害がどのよう な場所で生じるのかや,日本の自然 災害にはどのような特徴があるの か,どのような防災・減災への取 り組みがなされているのかにつ いて,多面的・多角的に考察し,表 現する。 ◇自然環境には災害と恩恵の両 側面があり,人々が生活してい くうえで必要な防災・減災に向 けた備えについて,主体的に追究 し,課題を見いだす。	①自然災害が生じる場所と要因, 日本の自然災害の特徴,生活の なかにみられる防災・減災への 取り組みを理解している。 ②自然災害が生じる場所や要因, 日本の自然災害の特徴,生活の なかにみられる防災・減災への 取り組みを見いだすための,地理 的見方・考え方を身につけている。  ③どのような自然災害がどのよう な場所で生じるのかや,日本の自然 災害にはどのような特徴があるの か,どのような防災・減災への取 り組みがなされているのかにつ いて,多面的・多角的に考察し,表 現している。  ④自然環境には災害と恩恵の両 側面があり,人々が生活してい くうえで必要な防災・減災に向 けた備えについて,主体的に追究 し,課題を見いだしている。	○			
2 月 ～ 3 月	<b>2章 生活圏の調査と地域の 展望 (調べ学習)</b> (1)地理的な調査テーマを設定 ↓ (2)事前調査と現地調査 ↓ (3)調査結果の分析と 仮説の検証 ↓ (4)調査結果のまとめと 地域づくりへの参画	◇生活圏の調査にあたって,仮説 の立て方や調査結果の検証の 方法,発表のしかたを理解する。 ◇生活圏の調査にあたって,仮説 の立て方や調査結果の検証の 方法,発表のしかたについての 技能を身につける。 ◇事前調査の結果からどのよう な仮説が立てられるのかや,現地 調査の結果をどのように分析・ 整理するのか,他の事例との比 較からどのようなことがいえるの かについて,多面的・多角的に 考察し,表現する。 ◇生活圏の調査の結果を地域に 還元し,よりよい社会を築いてい くことについて,主体的に追究し, 課題を見いだす。	①生活圏の調査にあたって,仮説 の立て方や調査結果の検証の 方法,発表のしかたを理解して いる。 ②生活圏の調査にあたって,仮説 の立て方や調査結果の検証の 方法,発表のしかたについての 技能を身につけている。  ③事前調査の結果からどのよう な仮説が立てられるのかや,現地 調査の結果をどのように分析・ 整理するのか,他の事例との比 較からどのようなことがいえるの かについて,多面的・多角的に 考察し,表現している。  ④生活圏の調査の結果を地域に 還元し,よりよい社会を築いてい くことについて,主体的に追究し, 課題を見いだしている。	○			